

口腔の役割

鏡餅



元旦には「年神様」（としがみさま）という新年の神様が、一年の実りと幸福をもたらすために高い山から家々に降りてくるとされています。お迎えした年神様の依代（よりしろ）、つまり居場所が「鏡餅」になります。「年」（とし）の語源は稲や穀物、さらにその実りを意味するため、五穀豊穡に深く関わり、人々の幸福を授ける神様として大切にされてきました。正月に門松やしめ飾り、鏡餅を飾ったりすることは、その年神様を迎え入れてお祝いし、たくさんの幸せを授けてもらうためのものです。

年神様は、新しい年の実りと幸福とともに、私たちに「魂」、すなわち新しい生命を分けてくれるといえます。年神様のこの「御魂」（みたま）は、年神様が依りつく鏡餅に宿るとされ、この鏡餅の餅玉を分けていただくことで「魂」をいただくこととなります。その年の魂となる「年魂」（としだま）をあらわす餅玉は、家長が家族に「御年玉」として分け与えました。「玉」には「魂」という意味があり、これが現在のお年玉の由来になります。

さらに鏡餅には「歯固め」という意味がありました。丈夫な歯の持ち主は何でも食べられ、健康で長生きできます。そこで新年の健康と良運、さらなる長寿を願う行事を「歯固め」といい、硬くなった鏡餅を食べました。したがって現在の鏡開きが「歯固め」の儀式にあたります。ちなみに年齢を表す「齢」（よわい）という字は昔、歯が無くなる頃に寿命がつきることから、寿命の意味も込められています。

神様の霊力が宿る鏡餅は、食べることに意義があります。食べることで新しい生命を受け、一年に一度、新たに生まれ変わるということになるわけです。お供えた餅は、刃物を使わず木づちなどで叩いて割って（鏡を開く）、雑煮やおしるこなどにして食べることが大切です。

鏡餅は、文字通り円い鏡の形をし、丸く円満な人間の靈魂をかたどり、さらに年神様が宿るお供え物であると同時に歯固めの願いが込められた硬いお供え物です。正月飾りの中心として、新年を迎えた家々の厳粛さを支え、やがて鏡開きの日に食され、新しい生命力と良運、歯固めの効力を分かち合う、この奥ゆかしい日本ならではの伝統文化、いつまでも続いてほしいと願わずにはられません。



「高橋大隈両家秘伝供御式目」“正月の行事食 歯固めの儀” 1721年(享保6年)
(京都府立総合資料館蔵)

<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/documents/dayori158.pdf>

正月「歯固め」の際、天皇に差し出す飲食物が丁寧に描かれています

<参考> 日本鏡餅組合ホームページ <http://www.kagamimochi.jp/index.html>

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

